

研究員 の眼

みんな大好き米国株式ファンド ～2021年7月の投信動向～

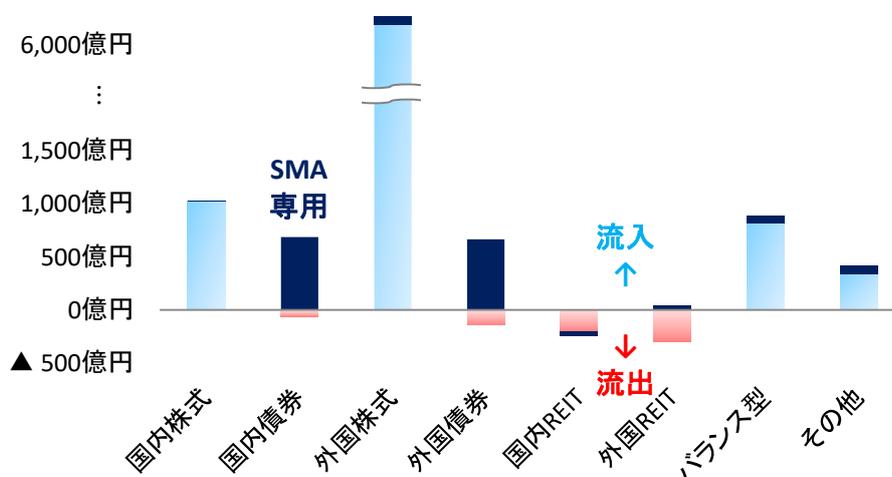
金融研究部 准主任研究員 前山 裕亮
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

外国株式を中心に大規模な資金流入が継続

2021年7月の日本籍追加型株式投信（ETFを除く。以降、ファンドと表記）の推計資金流入をみると、外国株式を中心に国内REITと外国REIT以外の資産クラスで資金流入があり、ファンド全体では9,200億円の資金流入があった【図表1】。6月や2021年に入って最大の純流入だった3月とほぼ同規模の資金流入であった。ただ、7月はSMA専用ファンド全体に1,600億円の資金流入があり、6月（1,400億円）と同等以上にSMA専用ファンドによって資金流入が底上げされた面がある。特に資産クラス別だと、外国債券と国内債券のSMA専用ファンド（紺棒）に700億円に迫る資金流入があり、SMA専用ファンドを除くと外国債券と国内債券ともに資金流出であった。

7月は外国株式に6,300億円の資金流入があり、引き続き投信販売を牽引した。6月の流入金額6,500億円よりはやや減少したが、SMA専用ファンドを除外すると6月、7月ともに流入金額は6,200億円と同規模であり、外国株式ファンドの販売は引き続き好調を維持したといえよう。

【図表1】 2021年7月の日本籍追加型株式投信（除くETF）の推計資金流入



（資料）Morningstar Direct より作成。各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類。

際立つ米国株式ファンドの人気

外国株式のうち、アクティブ・ファンドには4,300億円の資金流入と6月の4,200億円から若干、増加した。インデック・ファンドには2,000億円の資金流入と6月の2,300億円から減少こそしたが、3カ月連続で2,000億円以上の純流入となり、インデック・ファンドの販売も堅調であった。

7月に資金流入が大きかったファンドをみると、外国株式のアクティブ・ファンドでは6月から引き続き、基準価額によって毎月の分配金変動する、いわゆる予想分配提示型のファンド（下線3本）が引き続き人気だった【図表2】。それに加えて7月は当月に新設された「脱炭素テクノロジー株式ファンド」などのテーマ型のESG関連ファンド（緑太字2本）にも大規模な資金流入があった。また、外国株式のインデックス・ファンドでは超低コストのファンドへの資金流入が顕著であった。

なお、資金流入が多かったファンド上位10本のうち5本が米国株式ファンド、しかもアクティブ3本（赤太字、うち2本は予想分配提示型）、インデックス2本（青太字）とタイプによらず人気であった。米国株式（ファンド）はインデックス・ファンドを活用する資産形成中の投資家から、資産取崩段階に入りより高い分配金を好む投資家まで、幅広い投資家に支持されていることがうかがえる。

米国株式ファンドは過去の運用成績が総じて良いため、あえて地域分散などする必要がないと考える投資家が多いことが背景にあると思われる。ただ、今後もそうした良好な運用成績が再現されるかは分からない。特に長期投資で見直しをしない人やつみたてNISA口座などリバランスがそもそもできない場合は、ある程度は地域分散させた方が良いのではと筆者は考えている。

国内株式は2020年3月以来の流入規模

また、7月は国内株式にも1,000億円の資金流入があり、6月の500億円の資金流入から倍増した。投資家が注目している日経平均株価（線グラフ）は7月に2万8,700円台から2万7,200円台にと1カ月で1,500円下落した【図表3】。日経平均株価の月間での下落幅は2020年3月以来の大きさであったが、国内株式に1,000億円以上の資金流入があったのも2020年3月以来のことであった。

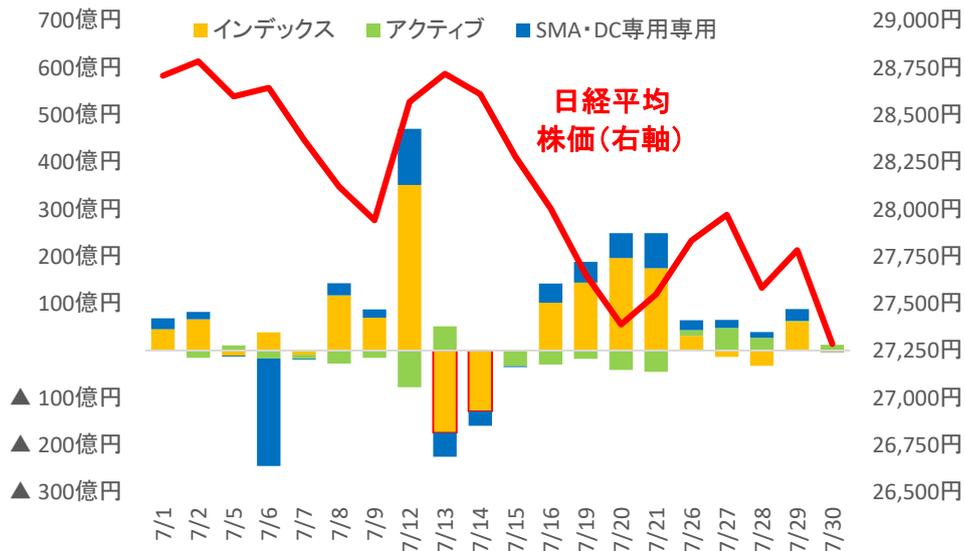
国内株式のうち個人投資家などのタイミング投資に利用されているSMA・DC専用を除くインデックス・ファンドへの流入金額が1,000億円であった。国内株式全体とほぼ同額であり、やはり多くの資金流入がタイミング投資によるものであったと推察される。実際にインデックス・ファンド（黄棒）には下落した翌日に資金流入し、その一方で日経平均株価が一時、反発した翌営業日の13日、14日の2日間（赤囲い）合計で300億円の資金流出があったことからそのことがうかがえる【図表3】。

【図表2】2021年7月の推計純流入ランキング

ファンド名	運用会社	7月の推計純流入	純資産7月末時点
1位 アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信D毎月(ヘッジなし)予想分配金提示	アライアンス・バーンスタイン	992億円	11,578億円
2位 eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	三菱UFJ国際投信	445億円	5,491億円
3位 脱炭素テクノロジー株式ファンド	大和アセットマネジメント	406億円	411億円
4位 グローバル・エクスポネンシャル・イノベーション・ファンド	日興アセットマネジメント	382億円	4,565億円
5位 グローバルAIファンド(予想分配金提示型)	三井住友DSアセットマネジメント	333億円	2,214億円
6位 SBI・V・S&P500インデックス・ファンド	SBIアセットマネジメント	251億円	2,729億円
7位 アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Bコース(為替ヘッジなし)	アライアンス・バーンスタイン	246億円	3,634億円
8位 日経225ノーロードオープン	アセットマネジメントOne	243億円	1,923億円
9位 アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信C毎月(ヘッジあり)予想分配金提示	アライアンス・バーンスタイン	230億円	5,420億円
10位 eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	三菱UFJ国際投信	228億円	2,359億円

(資料) Morningstar Direct より作成。ETF、SMA・DC専用ファンドは除く。

【図表3】国内株式ファンドの推計日次資金流出入



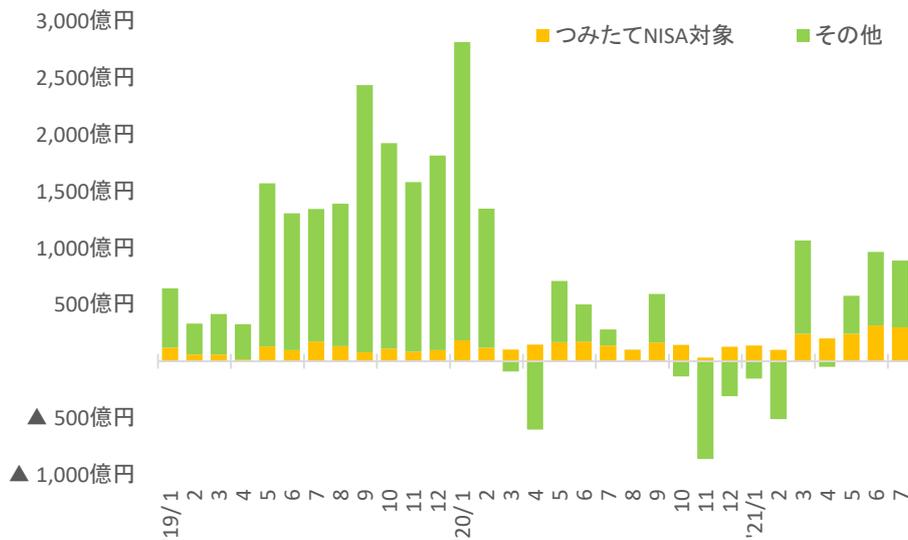
(資料) Morningstar Direct より作成。

国内株式は2021年4月以降、株価の上値が重く米国株式などから劣後してきている。長期的にみても米国株式は主要指数が史上最高値を更新し続けているのに対して、国内株式の主要指数は30年以上、更新できずにいる。それもあってか投資するなら国内株式ではなく、米国株式に集中投資、もしくはグローバルに分散投資する投資家が多いのかもしれない。ホームカンントリーバイアスがない投資家が多いという点は喜ばしいが、その一方で国内株式の市場関係者の一人としては少し寂しいところである。

バランス型への資金流入は堅調

その他、7月は内外株式以外にバランス型にも900億円の資金流入があった。バランス型には2020年2月までは大規模な資金流入があったが、それ以降は資金流出に転じる月もあるなど資金の動きは不安定な状況が続いていた【図表4】。それが、2021年5月からは継続して資金流入が続いている。

【図表4】 バランス型ファンドの資金流出入



(資料) Morningstar Direct より作成。2021年7月のみ推計値。

7月のバランス型への資金流入 900 億円のうち、300 億円がつみたてNISA対象のバランス型ファンド（黄棒）への資金流入であった。つみたてNISA対象のバランス型ファンドへの資金流入は2021年3月以降、じわじわと増加してきている。つみたてNISAの口座数（棒グラフ）、買付額（線グラフ）ともに着実に増加していることを踏まえると、つみたてNISAからの買付によってバランス型全体への資金流入も多少なりとも底上げされていると思われる【図表5】。

いずれにしてもバランス型は2020年3月のコロナ・ショックをきっかけに投資家が離れ、販売がふるわなくなっていたが、足元、徐々にではあるが投資家が戻ってきているようだ。また、冒頭でも触れたようにSMA専用ファンドにも7月だけでなく5月、6月と3カ月連続で1,000 億円を超える資金流入があった。ファンド・ラップといったバランス型と似たコンセプトの商品も売れ出してきているのかもしれない。

このように7月は多くの資産クラスで資金流入があった一方で、外国REITと国内REITからは金額は300億未満と小さいものの資金流出があった。外国REITでは2020年10月から10カ月連続、国内REITでは2021年4月から4カ月連続の資金流出となった。7月は内外問わずREITが株式より堅調で、特に外国REITは2%以上上昇するなど好調なファンドが多かった。そのため、利益確定の売却が出やすかったものと思われる。

【図表5】 つみたてNISAの口座数と3カ月の買付額の推移



(資料) 金融庁公表資料より作成。

【図表6】 2021年7月の高パフォーマンス・ランキング

順位	ファンド名	運用会社	7月の収益率	過去1年収益率	純資産 7月末時点
1位	DC日産株ファンド	三井住友トラスト・アセットマネジメント	14.3%	73.1%	34 億円
2位	テーマレバレッジ EV2倍	大和アセットマネジメント	10.0%	---	11 億円
3位	NASDAQ100トリプル(マルチアイ搭載)	大和アセットマネジメント	9.6%	---	10 億円
4位	ダブル・ブレイン(ブル)	野村アセットマネジメント	9.0%	---	288 億円
5位	グローバル5.5倍バランスファンド(1年決算型)	日興アセットマネジメント	8.5%	34.2%	118 億円
6位	米国分散投資戦略ファンド(6倍コース)	三井住友DSアセットマネジメント	7.3%	-1.2%	130 億円
7位	ノムラ・アジア・シリーズ(ノムラ・インドネシア・フォーカス)	野村アセットマネジメント	6.0%	29.7%	27 億円
8位	ノムラ・アジア・シリーズ(ノムラ・インド・フォーカス)	野村アセットマネジメント	5.2%	53.1%	576 億円
9位	ロボット戦略II 世界成長ファンド	T&Dアセットマネジメント	5.0%	14.4%	55 億円
10位	ブラックロック・ゴールド・メタル・オープンAコース	ブラックロック・ジャパン	5.0%	-22.5%	151 億円

(資料) Morningstar Direct より作成。2021年7月末残高が10億円以上のETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

(ご注意) 当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したのですが、その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。